

紀要第三号の発刊にあたって

学長 廣 島 和 夫

四條畷学園大学リハビリテーション学部紀要 第3巻 を発刊するにあたり、ひと言ご挨拶申し上げます。

大学開学3年目が過ぎようとしています。新規に大学が設置されたとは言え、短期大学 リハビリテーション学科 3年制コース からの移行でありますので、開学後も諸体制の充実化などに多大の時間を取られるということはありません。しかし、紀要に掲載する論文を募集すると取捨選択に困るほど応募があるどころか、なかなか集まらないのが現状です。なんとか原著 2編・短報 1編・総説 2編・報告 1編・公開講座 2編 を掲載することで体裁を保つことが出来ました。

Research mind の欠如とは言いませんが、低調であることには間違いありません。総合大学では、多方面にわたって数多くの専門家が最新の研究に取り組んでいますので、その刺激を受けて自ら刻苦勉励し研究に勤しむ環境があります。一方、単科大学では、身近なところからの刺激を受ける環境にありませんので、如何に強力な Research mind をもって自ら研究に取り組むことが重要となります。研究者の質を考える場合、どのような環境であれ、自分で研究しやすい環境を努力して作り出すことも才能の一つです。

この4月に学長として赴任して以来、教員の質・員数、カリキュラム内容、実習病院の数と質、単位取得試験のあり方、教員の研究環境・テーマ・研究指導者など、全体的に眺めてきましたが、今後は、時間をかけて教育と研究が効率的にできる環境を作って行かねばと考えています。

来年度の紀要を作成する際には、今年度のように巻頭言に相応しくない内容ではなく、「新しい学問の展開を目指す強い意気込みを感じさせる…」 との出だしで巻頭言が書けることを願っております。